

第1学年国語科学習指導案

- 1 単元名 世界で一つの「あいうえおのうた」を音読しよう
 (教材名) あいうえおのうた (あたらしいこくご 一年上・東京書籍)

2 単元の目標

- 身の回りの言葉に興味をもち、楽しく「あいうえおのうた」を音読する。
 (国語への関心・意欲・態度)
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、「あいうえおのうた」を音読することができる。
 (読むことア)
- いろいろな「あいうえおのうた」にふれることを通して、平仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。
 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ウ(ア))

3 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「世界で一つの『あいうえおのうた』を音読すること」を位置付けた。
 「世界で一つのあいうえおのうた」とは、身の回りの言葉を集めたり教科書教材に関連する図書を読んだりする学習活動を通して、児童一人一人が創作した「あいうえおのうた」のことである。オリジナルの「あいうえおのうた」を作るためには、集めた言葉を四・四・五音の形式にまとめ、音読を通して語のまとまりや言葉の響きを確認し、自分がイメージする「あいうえおのうた」に最適な言葉を選んでいく必要がある。
 従って、本単元でねらう「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」(読むことア)や、「平仮名及び片仮名を読み、書くこと」(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ウ(ア))を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

4 単元について

- 児童について
 - ※本単元に至るまでの当該領域の学習状況を記載
- 単元構成について

第一次では、単元全体の見通しをもたせるために、「あいうえおのうた」の教師モデルを提示し、学級全員で楽しく音読することを通して児童の学習意欲を高める。また、教科書教材以外に、いろいろな「あいうえおのうた」が掲載された関連図書を紹介して読み聞かせることで、楽しく読書しながら語彙を増やしていけるようにする。第二次では、ペア学習や学級での交流を効果的に取り入れながら「あいうえおのうた」を作るための語彙を増やしていく。集めた言葉を音読することやワークシートに書いて四・四・五音の形式に整えていくことで、付けたい力を確実に付けていく。第三次では、出来上がった「世界で一つのあいうえおのうた」を、学級全員で楽しく音読をすることで、言葉に関する興味を高める。
- 指導について

指導に当たっては、次の2点に工夫をして学習を進めたい。まず1点目は、関連図書の読書である。入学当初の児童は、語彙数が少なく表現力にも個人差が見られる。児童が語彙を豊かにし、楽しみながら「あいうえおのうた」を作るためには、読書を通してたくさんの言葉をインプットする学習活動が必要であると考えた。そこで、教科書教材に関連する図書を複数用意して常に教室に置いておき、児童がいつでも本を手にとれるようにした。2点目の工夫は、学習形態である。ペア学習を効果的に取り入れることで、どの児童にも確実に付けたい力を付けていきたい。例えば、創作に向けたアイデアを膨らませる場面や、ワークシートに書いた平仮名を正しく読んだり書いたりできているかチェックする場面で、意図的にペア学習を取り入れていく。このように、友達と協力して課題を解決する学習を取り入れることは、児童が主体的に学ぶ手立てとなると考えるからである。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
身の回りの言葉に興味をもち、楽しく「あいうえおのうた」を音読しようとしている。	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、「あいうえおのうた」を音読している。(読むことア)	いろいろな「あいうえおのうた」にふれることを通して、平仮名を正しく読んだり書いたりしている。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ウ(ア))

6 単元の指導計画（全5時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔 〕と評価方法（ ）
一	1	・教師モデルの音読や関連する図書の読み聞かせを通して、学習の見通しをもつ。	・学習計画表を提示して、課題を確認させる。 ・関連する図書を複数集めて、児童がいつでも手に取れるようにする。	〔関〕 いろいろな「あいうえおのうた」を楽しく音読しようとしている。（音読する様子を加点的に評価する。）
二	2	・教科書教材「あいうえおのうた」を音読する。	・どの児童も楽しく音読できるように、様々な読み方を工夫する。	〔読〕 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、「あいうえおのうた」を音読している。（音読の様子と評価カードを基に評価する。）
	3	・自分で「あいうえおのうた」を創作する。（本時）	・ペア学習を取り入れ、協力して学習を進めるように指導する。	〔言〕 「あいうえおのうた」を創作することを通して、平仮名を正しく読んだり書いたりしている。（音読の様子やワークシートの記述を基に評価する。）
三	4	・創作した「あいうえおのうた」を友達と伝え合う。	・友達と伝え合うことを通してよいところを見つけ、自分の「あいうえおのうた」に取り入れてもよいことを助言する。	〔読〕 創作した「あいうえおのうた」を音読している。（友達と音読する様子を加点的に評価する。）
	5	・世界で一つの「あいうえおのうた」を音読する。	・「あいうえおのうた」の楽しさが伝わるように、ペアやグループ、学級全員等、様々な形態で音読させる。	〔関〕 自分が創作した「あいうえおのうた」を友達と楽しく音読しようとしている。（音読の様子と評価カードを基に評価する。）

7 本時の指導（第3時）

(1) 本時の目標 「あいうえおのうた」の創作を通して、平仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。

(2) 本時の学習

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔 〕・評価方法（ ） ○準備物
0	1 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。	・「学習計画表」を基に、本時の学習内容を確認させる。	○学習計画表
	せかいで一つの「あいうえおのうた」をつくろう		
5	2 教科書教材「あいうえおのうた」を音読する。	・姿勢、口形、声の大きさに気を付けて読むことを伝える。	○掲示用「あいうえおのうた」
15	3 言葉を集めて、ワークシートに書く。	・昨日の出来事を想起させることから、「あいうえおのうた」の創作の手がかりとなる言葉を見付けさせる。	○絵カード ○ワークシート
25	4 集めた言葉を基に、「あいうえおのうた」を作る。	・ワークシートの書き方を指示する。	〔言〕 自分が創作した「あいうえおのうた」を、正しく読んだりワークシートに書いたりしている。（音読の様子やワークシートの記述を基に評価する。）
35	5 創作した「あいうえおのうた」を、となりの児童と読み合う。	・机間指導をしながら、創作が進みにくい児童を支援する。	
40	6 本時の学習を振り返る。	・上手な作品を紹介したり、協力して学ぶ姿をほめたりして、次時への学習意欲を高める。	